

幼児の創作舞踊活動と教育

飯 田 正 江

はじめに

幼児の世界は Dancing の世界である。創作舞踊の父といわれるルドルフ・ラバンは、人間のなすすべての運動動作を大きく二つに分けた。ひとつは何か現実的な目的をもった運動（仕事）で、もうひとつは現実的な目的をもたない運動（遊び）で、非現実的な夢の世界につながる運動である。その後者をラバンは Dancing とよんでいる。Dancing は舞踊することである。従って幼児のする運動のほとんど大部分は Dancing といえる。

教育のメディアとしての舞踊の特質は、その創造性と表現性にある。しかも、自らの身体をそのための手段に駆使して、自己表現を行うところが他の表現活動とは異なる。舞踊を創作するという体験をとおして、新しい美の世界を発見させ、創造する力を養い、個性的な人間を育てるのである。

創造性の教育の立場を前田博は、「第1は創造性を養うことは、子どもの持つ創造性をそこなわないようにまもり、育て伸ばしていくことであり、子どもが持たぬ能力を新たに授けることではないとする立場、第2は創造性をそこなわず伸ばしていくだけでなく、もっと高次の創造性へと高めつくりかえるように訓練することが教育だとする立場だ」と述べている。ここでは第1の立場で、幼児の内部に潜在しているものを、身体運動で具体的に創造させ、それを表現し、幼児の能力を目覚まし伸ばしていくものである。

上記の創作舞踊の実践をまとめ、本学紀要第9, 10, 11号に載せた。それは「幼児の創作舞踊の実践—3歳児の可能性—・—4歳児の飛躍—・—5歳児の創造性—」を年齢別に考察をした。今回はそれらを基にし、さらにその後の実践を加え、幼児の創作舞踊の活動を横断的に追究し、特徴と発達を考察するものである。

実 践

各々の年齢別表現の比較をするために、同一題材を表現させたものを取りあげる。

今回は「ロボット」と「シャベルカー」を取りあげる。2題とも動く機械的な物体で、ねらいは、そのものの形態とリズムを感覚的にセンスよくとらえることである。

展開の表現の内容は、aはひとりで表現したもの、bはaを色々と工夫しさらに発展させたもの、cは人数がひとり以上のもの、でまとめた。

I ロボット

【3歳】

1985年 9月14日 和田村中央保育園

<導入> ロボットについて話し合う。

保母 ロボットを知っていますか？

幼児 ウルトラマン、チェンジマン、バイオマン、かいじゅうと戦う。ミサイル、パンチ、キック、チェンジするロボット、飛行機、車、ヘリコプターに変身する。手と足が離れる。

<展開>

すぐ歩き始める。

a ①「ガチャガチャ」と言いながら右手右足で一步一步進む。

②両手を前へ平行に出し、手は拳をつくり歩く。

③a→両肘を直角に上に曲げて止まる→くり返す。

④a→「ビー」と手と足をあげ光線を出す。

⑤a→両手を頭の上に交差し「ビーム」。

⑥a→両足同時にジャンプ。

⑦a→両足をなげ出しすわって尻を軸に自転。

b ①a→両手を合わせ→手を床につけて前転。

②2人で向かい合って戦う。腕を上げたり両手と片足をあげたりして戦う。

③a→変身して飛行機でとび回る→膝をついて着陸→変身して自動車を運転。

c ①a→aとaが合体 後の子が前の子に加わってくっついていく。(2人)

②3人ロボット 中心の子が両手を前と後に出して連なる(3人)

子ども達は声を出しながら「ガッガッギー」「ガチャガチャ」等歩き、止まって「ビーム」と光線を出したり、色々な形や動きを工夫しながら、表情をこわばらせ体を硬くして表現していた。そして、歩きながら、次は何をしようかと考え、動きを工夫し、発展させていた。

【4歳】

1984年 8月24日 上田市立神川第一保育園

<導入> ロボットを持ってきて充分遊ぶ。

ロボットについて話し合う。

保母 どんな形している？

幼児 四角、三角、長四角、足にタイヤがある。

保母 何するの？

幼児 かいじゅうをやっつける。働く、お腹からミサイルを出す。キックやパンチをする。

宇宙へユーホーとか飛行機に乗っていく。

保母 ロボットは人間と同じ？

幼児 違う。頭が違う。手が違う。歩き方がまっすぐ歩く。ドシンドシンする。

<展開>

声を出しながら歩き始める。

a ①右手と右足、左手と左足を出しながら一步一步歩く。

②両腕をあげ、すり足で膝を伸ばして進む。

③両手を伸ばし前で合わせ「ドカンドカン」と進む。

④片腕を前に伸ばし拳をつくり片手でそれをささえ「ガキंगाキン」と進む。

⑤歩く→「発射ドカンドカン」と言いながら腕を早く出す。手の指を全部開く。

両肘を直角に上に曲げ歩く→腕を前へつき出す。

幼児はドリルロボット・ミサイルロボット・ドリルミサイルロボット等口々に言いながら表現している。

b ①a→立った姿勢から床に手をつき前転する→a

②ドリルロボット 手を前へ伸ばし両手を合わせドリルをつくりドシンドシンと歩く→床にスライディングする。

③手を前へ伸ばし両手を合わせドリルをつくりぐるぐる回す→両手を胸の前で合わせ自転する。

④「ドヒンドヒン」と音を出し、2回に1歩前進する→くり返す。

⑤変身ロボット 頭の上に両手を乗せ歩く→変身し腕を下へ→変身しドリルロボットになり、両腕を前へそろえ手で拳をつくり前進。

⑥「ガシंगाシン」と言いながら足の膝を股まであげ歩く→「ドカン」ジャンプし片手で拳をつき出す。

⑦「ドカン」と片足でホップし腕を伸ばし拳をつき出す→「ドカ〜ン」と片足両腕を前へつき出す→変身して腕を斜に下げ飛行機になる→飛行機でとぶ。

⑧「ドシンドシン」と両腕を前に出し歩く→片腕で拳をつくりつき出し足を片方あげながら歩く→変身。下を向いて手を頭の上へ（2拍）→飛行機でとぶ。何回もこのパターンをくり返す。

⑨床にうつ伏せて手を広げ飛行機になる→変身し、立ってロボットになる。

⑩腰を前に曲げ手を後にし電車になってぐるぐる回る→変身し、後の手を合わす→まっすぐ立ってロボットになる。

⑪前かがみになり両腕を前に伸ばし汽車になる→変身して両手を下げ拳をにぎり歩く→拳を広げ歩く。

⑫飛行機で飛ぶ→「ガチャン」と両腕を下げる→「ドシンドシン」と歩く→「ミサイル発射」と両腕を合わせ前へ伸ばす→「ドシンドシン」と拳をつくり歩く→「クラッチ」と片足を蹴る。→「ドシンドシン」と歩く→飛行で飛ぶ。

c ①3人ロボット、各々がロボットで動き「ドカンドカン」→「ミサイル発進」→「合体」→「チェンジ」→「ドカンドカン」と口々に言いながら合体する。3人並列に並ぶ。中央

の子が胸の前で手を合わせミサイル、その子の肩に手をおき片足を横にあげる。片方の子は腕を横に伸ばし、1つのロボットとなる。(3人)

②各々がロボットで動き「ドカンドカンバキューン」→3人が正座し肩に手をおいて連なり合体→そのまま立って電車で走る→すわって→先頭の子が両腕を広げ羽をつくり、後に2人が連なり飛行機でとぶ。(3人)

③各々ロボットで動く→合体 先頭は手を床につく。その両足をひとりが持ち、その後に腕を横に広げ羽をつくり立ち飛行機をつくる。(4人)

④先頭の子が腕を後に、その手にひとりがつなぎ、次の子が肩に手をおく→3人離れてロボットになる→羽をつくり飛行機でとぶ。(3人)

⑤先頭が床に伏せ、手を頭の上へのせるその足に次の子が手を出し伏せてつながり、次の子も同様にする→変身 中央の子が立って両腕を横に広げ、その両側に2人が中腰でつかまる。(3人)

【5歳】

1984年 8月24日 上田市立神川第一保育園

<導入>ロボットを持ってきて充分遊ぶ。

ロボットについて話し合う。

保母 ロボットで知っていることを教えて下さい。

幼児 かいじゅうロボット。腕が剣や鉄砲になる。トゲトゲがある。体をまるくする。ロボットはかいじゅうより強い。変身する。恐竜ロボット・ダイナマン

保母 強いロボットになろう。

幼児 いっぱい食べて筋肉モリモリのロボットだ。

ほとんどの幼児は、顔の表情を強そうにし、体を緊張させ歩く。手の先、腕や足の形を工夫している。

a ①両腕そろえて斜め上にあげ、膝を股まであげ一步一步前進

②両肘を直角に上に曲げて歩く。

③膝を深く曲げ片足を後に伸ばし一步一步前進

④「僕ロボット、オシャベリロボット」と言いながら片手は拳で片手は広げて歩く。

⑤手の指に力を入れ全部広げ一步一步前進

b ①拳を胸の前で合わせ前進→両腕を広げ手先だけ上にそらし歩く。

②a→一步一步片足を前へ踏み出し手を口にあて「ビー」と光線を出す。

③a→腕を大きくまわす。

④a→両手を床につけ足の膝を伸ばし「ドシンドシン」と歩く。

⑤a→前転し起きて回転ロボット

⑥a→両手を高くあげ歩く→床に伏せ両足を上にそらし、手も後ろへ。

c ①グループで合体ロボットをつくる。

- ②恐竜ロボット。ひとりが手を床につき膝をつく。それをまたぎ立ち両手を前の子の頭へ2人が床に伏せ長く連なり先頭の足につながる。(4人)
- ③先頭は頭を下げ、両腕を後に、それに手をつなぎ、次の子はその肩につかまり片足をあげてしっぽをつくり横にふる。(3人)
- ④床に2人並んで伏せる。その2人を足の間にして膝につき腕を広げる。その後にひとり正座し、両腕を出し連なる。(4人)
- ⑤ひとりを背負い、それに2人が次々に肩に手をおいて連なる。(4人)
- ⑥先頭が立ち腕を後にし、そこにひとりを肩車してつかまる。さらにもうひとりがその後につき、片足を後へ出ししっぽをつくる。(4人)
- ⑦膝をつきうずくまる。その上に乗り体を伸ばす。それをまたぎ立ち腕を前へ強く出す。一番後にひとり床に伏せ連る。(4人)
- ⑧先頭が手を床につき足の膝を伸ばす。その腰につかまり、又その腰に次がつかまり、後は床に長く伏せて伸びる。(4人)
- ⑨手を床につき膝を曲げる。そこをまたぎ立ち両腕をそろえまっすぐ前へ伸ばす。ひとは後にうつ伏せになり長くなる。(3人)
- ⑩ひとりを向い合い抱き上げ、そこに腕を出しもうひとり立つ→変身し、ひとりひとりがロボットで歩く→合体し2人が床に伏せ、それをまたぎひとりが両腕を直角に上に曲げ立つ。(3人)
- ⑪ひとりを向い合い抱き上げ→変身し2人共床に伏せる。(2人)

Ⅱ 「シャベルカー」

【3歳】

1990年 10月24日 丸子町立西内保育園

<導入>実際に工事現場で動いているシャベルカーを見る。

保母 シャベルカー何をやってましたか？

幼児 砂、トラックに入れていた。回った。こうやってと手を上にあげやってみせる。トラックがジャーとあけて又入れる。車のエンジンかけて動いていた。

<展開>

保母 土を掘って下さい。

- a ①すわって両手でツメをつくり掘る→右へ捨てる→くり返す。
- ②立って両手でツメをつくり掘る。
- ③立って片手でツメをつくり進み→すわって掘る。
- ④片手をつき、片手でツメをつくり掘りながら進む。
- ⑤膝をついて体を床につくくらいにし、両手のツメで掘る。
- ⑥すわって、上下に掘る。
- ⑦立膝で腕を上下に大きく掘る。

b①両手を上にあげツメをつくりジャンプする→すわって掘る。

②立膝で進み→止まって掘る。

保母「舞台でやって下さい」 bの子がやるが、他の子は見ていない。自分も前へ出てやりたいと上るが、表現時間は短い。

保母「大きいシャベルカーになって下さい」。

ひとりの女の子が作りたいたいと言い5人がかたまり、運転手ができて各々連なったが意味はなさそうですぐ離れてしまう。2人で形になりそうでひとりについたが、すぐ離れる。その他の子は飛び回り表現できない。

【4歳】

1990年 10月24日 丸子町立西内保育園

<導入>

保母 シャベルカー見に行ったけど、何を掘ってましたか？

幼児 砂、石

保母 土を掘ってどういうふうになった？

幼児 トラックに体を動かして入れた。こうやってまわって、いっぱいになったらおしくんだよ。

保母 ではひとりで土を掘って下さい。

<展開>

a①立膝で土を掘る。両腕でツメをつくり進む。

②a→「ジャー」と土を横に捨てる。

③a→土を上へ捨てる。

④a→掘って左へ90°まわり捨てる。

⑤両肘を曲げ手のひらを上にしそろえ立膝で進む→そのまま円を描く。

⑥片手を上に高くあげ立膝で進む→掘る。

⑦両手を高くあげ→力強く掘る。

⑧立膝で両手を前にそろえツメをつくりそのまま横に進む。

⑨立って両手をそろえ伸してツメをつくり、下から掘って横に捨てる。

⑩床に伏して、手をつき、ガッガッと速く進む。

保母 お友達と2人でやってみましょう。

b①ひとりが床に腹ばいになり手を後ろへあげ足の膝を上げ曲げトラックになる。そこへシャベルカーが土を掘って入れる→トラックは足をおろしズルズルと動く→ごろりと横になり土を捨てる。

②ひとりが手と膝をつきトラックになる。シャベルで「ジャー」といいながら入れる。

③ひとりが床にあおむけになりトラックになる。3人が立膝で掘って土を入れる。

④ひとりが床に伏してトラックになり、片手でツメをつくり土を入れる。

⑤ひとりが体をまるめてトラックになり、力強く速くツメを動かして土を入れる。

c①ひとりが手と膝をつき、ひとりがそれにまたがって両手をそろえツメをつくる→動く。

【5歳】

1990年 10月24日 丸子町立西内保育園

<導入>

保母 シャベルカー見に行ってきた絵を描きましたね。どんなだった。

幼児 シャベルがギザギザ、タイヤが戦車みたい、運転席があった。車みたいじゃなくてま
るい。ガチャガチャって動いてた。掘るところがあった。シャベル、タイヤのところ
が矢印、屋根があって棒があった。屋根があって棒がついているのは晴れると暑くな
るから、車みたいなタイヤじゃない。

保母 皆良く見て色々知っていますね。ではひとりでやってみましょう。

<展開>

a①立膝で両手をのばしツメをつくる→土を掘る。

②a→両手でつかみもちあげ指を広げて土を捨てる。

③a→片手で掘って後へ土を捨てる。

b①片足を1歩大きく出し、後足をのばし中腰になり両手のツメで土を掘る。

立って両手を前にそろえツメをつくり進む→立膝にすわって、手前にツメを動かし土を
掘る→トントンと捨てる。

②立って両手を前にそろえツメをつくり歩む→1回転して土を捨てる。(同じような表現
が6例)

③立膝で片手を頭の上にし屋根をつくり片手のツメで土を掘る。

保母 皆上手でしたよ。今度はグループでやってみましょう。

c①先頭が立って両手を前に出しツメをつくる。立膝をついてその子の足につかまる。両足
を開いて長座をし前の子を脚ではさむ。その後にひとり立って両手で低い姿勢の2人の上
へ→立膝の子が運転手になる。一番後にいた子が立って運転席の屋根になる。その後に立
膝でひとりがつく→全体に少しずつ進む。(4人)

②先頭が立って両手を伸ばしツメをつくり掘る。2人が床に平行にうずくまる。そこにひ
とりが乗り運転手になる。後の子が立って先頭の肩に手をおき屋根をつくる→動こうとす
るとくずれ動けない→先頭片手で大きくシャベルになり掘る→横へ捨てる。(5人)

③先頭立って両手を前に伸ばしツメをつくる。床にうつ伏せになり先頭の足につかまる。そ
の上にひとりのる。その足に床にうつ伏せになって連なる。そこに膝をついてひとりが連
なる→ズルズルと進みながら掘る。(5人)

④先頭立って両手でツメをつくる。立膝で先頭の足につかまる。体をかがめて前の子より
低くなってつかまり運転する。後ろに立って屋根をつくる。(4人)

保母 皆、大きなシャベルカーになりましたね。

考 察

舞踊的イメージ

舞踊を創作するには、身体を動かす大きな感動が必要であり、まず舞踊的イメージをつくることである。梅本堯夫は「想像的思考は論理的思考よりも発達早い。幼児期のいわゆるお伽話の好きな時期はまさに想像的思考の発達する時期であるとみてもよい。その時期をピアジェは直観的思考期と呼んでいるが、直観に頼るということは、単に知覚に頼るという意味だけでなく、イメージ活動が盛んになって、それによって思考するという意味もある。」と述べている。幼児期の創造的思考はこの想像的思考が中心で、イメージ活動を好み盛んに行う時期だといえる。具体的に導入の過程で、様々な方法でイメージをより豊かにするための動機づけを行う。それは、実際に体験したり、図鑑やビデオを観たり、絵に描いたり、粘土で造ったりする。そして、表現の前には、題材について話し合いがなされ、まず言語によってイメージを具体的に表現している。梅本は「創造的思考においては、イメージが重要な役割を占め、思考で言語の演ずる役割は大きく、言語があってはじめて形成的な操作的思考ができる。しかし一面では、言語は社会で通用しているもので通俗性、固定性をもち、その意味では創造性と反対である。創造的思考では、言語に制限されず、イメージを思考に用いるか、あるいは言語の根底にあるイメージを活用する必要がある。」と述べている。ここでは、言語の表現は、あくまで、イメージを思考に用い、言語の根底になるイメージを引き出すための方法としての活用である。3歳児は、保母の問いに対して、まず動き出そうとする。これは言語での表現より、動きとしての舞踊的イメージがつかみやすいといえる。「ロボット」についての答えは、3歳児は、名詞が断片的に表出している感じで、4歳児は、形や動きについての答えがなされ、5歳児になると、さらに強いロボットという捉え方をしている。ここでも年齢による発達の段階は明らかに観られる。こうして舞踊的イメージをつかむため言葉で表出し、他の幼児の言葉に刺激されたり、自らのイメージをさらに深く強くしたり、運動のイメージと運動による空間形成のイメージ、すなわち舞踊的イメージをつくるのである。年齢が進むに従ってこの両者の舞踊的イメージが正確になされていることが、言葉の表出からも明らかである。

表 現

舞踊的イメージができると次はそれを具体的に運動で現すのである：表現的概念（何をどんなふうに表示したいか）を具体的にしていくためには、技術が欠かせない。芸術は創造性と技術の両面を持ち成立するが、幼児の舞踊は創作を第1義的に考える。ここでの技術は、単に、認知された存在（知覚や心象）と表現的概念（つくり出そうとする映像の心像）を動きで表現できるかどうかという点での技術と考える。舞踊の特性は、自分の身体がメディアであり、周知のとおり幼児は身体を動かし運動することにより、様々なものを獲得していく。日々の生活の中で運動をくり返し成長している幼児にとって、他の表現技術よりも表現しやすい方法であ

る。特に3歳児は、保母の問いに対してすぐ動き始め、その点では舞踊的イメージを描き易いといえる。

表現された内容をみると、年齢別では以下の通りであった。ロボットでは、a（ひとりで表現したもの）が3歳は8例、4歳は6例、5歳は3例である。次にb（aを色々と工夫しさらに発展させたもの）が3歳は3例、4歳は11例、5歳は6例である。さらにc（人数がひとり以上のもの）が3歳は自然に前の子に加わって合体したものが1例と、3人が1例、4歳は3人が4例、4人が1例、5歳は2人が1例、3人が2例、4人が6例であった。

シャベルカーではaが3歳は7例、4歳は10例、5歳は3例で、bが3歳は2例、4歳はひとりがシャベルカーでもうひとりがトラックになるという形で5例、5歳は7例で、cが3歳はなし、4歳は1例、5歳は4例であった。年齢が進むにつれて表現項目がふえ、内容も、リズムや空間が複雑になり豊かになっている。3歳はひとりでの表現が多く、4歳は、ひとりでの表現をさらに色々と工夫し発展させている。5歳は、グループでの表現が多い。

さらに、内容を追究すると、ここでは、ひとりひとりの個人差が大きい。「ロボット」の3歳でaはロボットになって歩くことのみを何度もくり返しているが、これは4、5歳にもみられる。3歳でもb-①は歩きから前転するロボットを捉え、それと同様の表現が、4歳b、5歳bにもみられる。3歳は、ロボットになって歩きそのロボットが回ったり、光線を出したり、ジャンプしたりする表現が大部分であるが、b-③は1回変身をして飛行機になって飛び回っていた。このようにロボットから違うものに変身している例は、4歳は10例あった。5歳は、表現の観点がグループの表現になっているため、ここではみられない。変身を2回くり返している例が3歳と4歳に1例ずつみられる。「シャベルカー」では3歳b-①は、シャベルカーの形を立ったり、すわったりして捉え掘り進んでいるが1例ある。4歳ではみられなかった。

表現内容には、表現技巧も重要なポイントとなるが、幼児の場合は、その感じを現せているかという点にしぼり、「そのものになろうとしている」いわゆる感情移入的に捉え、尚かつ、「外からみてそれを感じとれるか」という捉え方でこの場合は捉えている。今回の2例は動く物体で機械的な感じを「ロボット」では硬い表情で全身を硬直させギクシャクと歩いていたが、これは3歳から5歳までの個人差が特に大きかった。

以上の2点から幼児の舞踊の表現は個人差がかなり大きかったといえる。その個人差こそ幼児の舞踊の特徴であり、それを認めることが舞踊教育の第1歩である。幼児の特性である自己中心的なものがここでは大いに生かされ、自分のやりたいように表現することが次の創造に繋がる過程の第1歩であろう。

芸術行動を「一定の様式に従って、不一致を追求するコミュニケーション行動」と、波多野誼余夫は定義し、「子どもの自生的な行動を芸術行動として発達させていくためには、それをまず生活的文脈から独立させていくことが必要になっているわけだ。まだ様式に関しては、ある既存の様式を外から与えるのではなく、できるかぎり子どもの行動に内在する規則性を引き出

して、これを発展させるのでなくてはならない。これはいわば、子どもの自生的な芸術である。」と述べている。幼児の舞踊に一定の様式があるのだろうか。いいかえると舞踊の形式があるのかということになる。邦正美は「舞踊という芸術は4つの成分、舞踊運動、空間形成、基本形式、基本法則をもっている。前2つは素材的性質のものであり、後半2つはそれらを組み立てる法則的な性質のものである。舞踊の形式とは空間的秩序を形成と呼び常に創造させるものである。基本形式は、シメトリー、並列、コントラスト、バランスがある。舞踊の基本法則とは時間的秩序のことをいい、4単位方式、6単位方式、ロンド方式、カノン方式がある。」と述べている。

今回の幼児の舞踊から、上記の舞踊運動と空間形成は個人差は大きいけどどの年齢にもみられた。次に基本的形式は今回はみられないが、題材によっては4歳から可能である。次に時間的秩序とはリズムのことであるが、前回の実践から、3歳もわずかではあるが、リズムパターンやフレーズ感覚をもっている。むしろ大人の我々より、何度もくり返す楽しさを充分知っているし、それを何度もくり返しているうちにリズムが整ってくるのである。表現時間をみると、ひとつの題材を色々に変化させ発展させながら20分～30分表現している。ある動きを創るとそれを何度もくり返し→次に新しい動きを創り→始めの動きをくり返し→次の動きを創造していく。これはA→B→A→C→Aと、まるでロンド方式のようである。又時にはA→B→Aというように4単位方式の不充分な形のようにもある。幼児に形式とか方式を教示したわけではなく、自然と発生したものである。これは先に述べた幼児の中に内在する規則性を引き出せたといえるのではないだろうか。舞踊は波多野が述べた理想的な幼児の自生的芸術だといえる。

人 数

実践から3歳はひとりで表現をする。「シャベルカー」で保育者が意図的に、大きいシャベルカーをつくるように指示し、5人が集まったが結局表現はできなかった。4歳は「ロボット」を3人でつくったのが4例、4人が1例、「シャベルカー」は保育者が2人でやるように指示を出し、2人で協力して1台のシャベルカーになったのは1例、他の4例はひとりがシャベルカーで土を掘り、もうひとりのダンプカーに入れた。5歳は「ロボット」で2人が1例、3人が3例、4人が6例で合体してひとつのロボットを創り、又離れて個々のロボットになり再び合体したりした。「シャベルカー」は4人が2例、5人が2例で役割を決めてかたまりとして表現した。5歳は友達といっしょに表現することを好み、紀要11号の結果には5人～7人でひとつの題材を表現することが可能であった。この時の幼児は表現の一部分を分担しながら、全体としての表現を客観的にイメージができ、全体像を想像できる。5歳は仲間とかかわり舞踊を創ることにより、自己をみつめ、想像力、表現力、運動能力、創造性、リズム、空間能力等を育てることが可能である。

お わ り に

今回、幼児の舞踊活動を横断的に追究し、幼児期の創作舞踊の発達段階を大まかではあるが

つかみそれを理論づけることができた。しかしながら、芸術活動である舞踊は、当然のことながら個人差は大きかった。幼児の舞踊教育は年齢別の特徴をふまえながら、しかもその中で幼児ひとりひとりの個性を尊重し受けとめ、さらにのばしていかなければならない。

恩田彰は「子ども時代の想像には波動的な高まりがみられる。その第一の時期は、4歳から8歳位までの間で呪術的空想時代といわれるものである。この年代の子どもは、自我の存在を体験するようになり、同時にその対象としての外界に接近しようとするが、しかし、外界の事実を認識しそれを包括するにはあまりに経験が不足している。そこでその間の隙を想像によって埋める必要が生じ、従って、この年代の子どもの世界は、大部分想像によって作られるといっても過言ではない」と述べている。

はじめに述べた幼児の Dancing の世界は、大部分想像の世界だと言える。その想像の世界の活動である舞踊を、幼児が本来持っているものをそこなわないようにまもり、さらに伸ばしていくような方向へと導いていくことが重要である。特に今回は、幼児の中に内在している舞踊の規則性が3歳児から捉えられ、5歳児になると、さらにはっきりとした形として表現されていた。恩田は「想像力はおとなになるにしたがって、つまり認識力の発達につれてそれは衰弱あるいは後退する」と述べている。豊かな想像力のある幼児期こそ、自らの身体を駆使して、内在しているものを表現に導く舞踊教育が重要となる。

引用・参考文献

児童心理学講座5 知能と創造性 梅本堯夫・波多野誼余夫他 金子書房 1969年

創造性研究の基礎 恩田彰 明治図書 1971

舞踊の美学 邦正美 宮山房 1973

子供のための創造教育 ジェラルディン・B・シックス 玉川大学 1948

幼児の創作舞踊の実践—3歳児の可能性—上田女子短期大学紀要9号 飯田正江 1986

” —4歳児の飛躍— ” 10号 飯田正江 1987

” —5歳児の創造性— ” 11号 飯田正江 1988

3歳児の舞踊の可能性 教育舞踊研究48 教育舞踊日本研究所 飯田正江 1994